



文教大学教育研究所  
〒343-8511  
埼玉県越谷市南荻島 3337  
Tel. 048-974-8811

# 教育研究所 ニュース

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/>

2019.10 第49号

- 新規事業  
「名著の読みかた」
- 世界の教科書展  
特集：台湾の教科書
- 世界の教科書 巡回展
- 2019年度  
「定例研究会」  
「文教大学の授業」

## 教育研究所新規事業「名著の読みかた」

文教大学教育研究所 所長 平 正 人

「不読率」とは1ヵ月に1冊も本を読まなかった人の割合である。第63回学校読書調査（公益財団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）によれば、小学生、中学生が中長期的に改善傾向にあるのに対して（2017年は小学生5.6%、中学生15%）、高校生は高い割合を示している（2017年は50.4%）。ベネッセ教育総合研究所の放課後の時間の使い方に関する調査（第2回放課後の生活時調査）では、小学5年生から高校3年生までの大半が放課後の時間を勉強とメディア利用に費やしている。高校生の場合、1年生は勉強時間が平均1時間18分、メディア利用時間が平均1時間37分、2年生は勉強時間が平均1時間34分、メディア利用時間が平均1時間36分となっており、どちらもメディア利用時間が勉強時間を上回っている。3年生になると、大学受験準備と推測されるが、勉強時間が平均2時間26分、メディア利用時間が平均1時間33分となり、勉強時間とメディア利用時間の平均時間が逆転する。ちなみに、小学5年生から中学3年生においても、放課後のメディア利用時間は平均して1時間を超えている。

情報化社会の進展がメディアの普及を加速化するなかで、不読率の要因は携帯電話やSNSなどのメディア利用に求められてしまいがちである。だが、子どもたちが本を読まなくなったことに対する危機感は、情報化社会の進展にともなって生まれたわけではなく、1980年代にその兆候は現れていた。したがって、不読率が1980年代にすでに問題視されるようになっていたのであれば、その要因を近年急速に普及するメディア利用にのみ求めることはできないであろう。

不読率の根本的な要因はなにか。平成28年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究（文部科学省）によれば、「本をあまり読まない理由」の上位に挙げられているのが、高校生の場合、「他の活動で時間がなかったから」（約65%）、「他にしたいことがあったから」（約46%）、「ふだんから本を読まないから」（約33%）となっている。「他の活動で時間がない」「他にしたいことがあった」という理由には、おそらく部活動などの時間が含まれていると考えられ、これらの時間を削ってまで読書時間を増やすべきかという議論はここでは差し控えるが、三番目に挙げられている「ふだんから本を読まない」という理由は検討の余地がある。これらに続く理由に挙げられている「読みたいと思う本がないから」（約22%）、「どの本がおもしろいかわからないから」（約8%）、「読む必要性を感じなかったから」（約11%）をも考慮するならば、いわゆる「本との出会いの少なさ」「本の面白さがわからない」ことに集約される不読率の要因が約63%に達することになる。

本との出会い、それはある意味偶然に委ねられるものでもあり、本の面白さ、それは自分の力で発見することがなかなか難しい。しかしながら、教育研究所はこれらの要因を改善することこそが不読率の根本的な改善につながる第一歩と考え、本との出会いと提供し、本の面白さを体感する、「名著の読みかた」と題した公開講座を新規事業として立ち上げることにした。本事業は、現代まで受け継がれている名著との出会い、そしてまた、それらの名著が何故に読み継がれているのか、すなわち、それらの面白さを体感する機会を提供することを目的としている。公開講座の開催にあたっては、「世界の教科書巡回展」においてこれまで開催実績を共有する丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部の協力を得て、会場を桶川市駅前公共施設（OKEGAWA hon プラス・イベントスペース）として、2019年3月24日（土）には大島丈志先生（第1回公開講座「宮沢賢治の作品世界を楽しもう 賢治が歩いた埼玉」）、7月20日（土）には実川恵子先生（第2回公開講座「万葉集の魅力 令和を迎えて改めて読み直す」）にご講演をいただいた。それぞれの講演は、開催前から多数の参加申込がよせられ、またメディアの取材も入り、盛会のうちに終了した。教育研究所は、引き続き、本との出会いの場を提供し、本の面白さを体感する機会をひろく公共の場において発信していきたいと考えている。



文教大学 教育研究所  
BUNKYO UNIVERSITY EDUCATIONAL RESEARCH

シリーズ企画 名著の読みかた 1

宮沢賢治の作品世界を楽しもう  
賢治が歩いた埼玉

作家宮沢賢治の物語で、有名な「雨にモモタマシ」を解説した後、賢治が訪れた埼玉の歴史を辿ります。埼玉を訪れた賢治の足跡を辿ります。賢治の若いうちの歌、非常に興味深いものがあふれます。賢治作品の多岐な世界を楽しみましょう。

講師 大島 丈志  
文教大学教育研究所 教授

1979年、東京都生まれ。中央大学文学部国文学科専攻修士課程修了。博士（文学）。専攻、文芸学。東京大学文学部助教授、専攻、日本近代文学、専攻、文学部助教授。2017年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2018年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2019年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2020年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2021年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2022年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2023年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2024年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2025年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2026年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2027年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2028年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2029年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2030年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2031年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2032年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2033年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2034年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2035年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2036年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2037年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2038年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2039年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2040年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2041年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2042年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2043年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2044年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2045年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2046年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2047年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2048年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2049年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2050年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2051年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2052年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2053年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2054年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2055年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2056年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2057年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2058年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2059年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2060年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2061年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2062年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2063年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2064年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2065年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2066年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2067年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2068年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2069年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2070年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2071年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2072年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2073年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2074年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2075年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2076年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2077年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2078年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2079年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2080年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2081年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2082年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2083年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2084年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2085年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2086年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2087年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2088年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2089年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2090年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2091年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2092年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2093年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2094年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2095年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2096年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2097年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2098年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2099年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2100年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。

3月24日（土）  
13:30-14:30  
13:00-14:30  
（開場13:00）  
参加費 無料

おげがわマイン 3F  
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2  
OKEGAWA hon プラス イベントスペース  
お問合せ先 ☎048-786-6353

文教大学 教育研究所  
BUNKYO UNIVERSITY EDUCATIONAL RESEARCH

シリーズ企画 名著の読みかた 2

万葉集の魅力  
令和を迎えて改めて読み直す

千載一不易という時代が終わり、新たに「令和」が始まりました。新書「万葉集」の出版は、「万葉集」の魅力を改めて発信する絶好の機会です。日本最古の歌集「万葉集」を、今一度、多くの人々に紹介し、その魅力を改めて伝えていきます。

講師 実川 恵子  
文教大学教育研究所 教授

1979年、東京都生まれ。中央大学文学部国文学科専攻修士課程修了。博士（文学）。専攻、文芸学。東京大学文学部助教授、専攻、日本近代文学、専攻、文学部助教授。2017年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2018年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2019年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2020年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2021年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2022年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2023年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2024年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2025年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2026年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2027年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2028年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2029年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2030年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2031年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2032年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2033年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2034年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2035年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2036年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2037年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2038年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2039年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2040年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2041年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2042年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2043年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2044年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2045年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2046年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2047年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2048年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2049年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2050年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2051年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2052年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2053年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2054年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2055年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2056年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2057年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2058年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2059年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2060年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2061年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2062年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2063年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2064年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2065年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2066年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2067年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2068年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2069年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2070年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2071年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2072年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2073年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2074年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2075年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2076年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2077年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2078年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2079年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2080年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2081年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2082年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2083年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2084年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2085年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2086年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2087年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2088年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2089年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2090年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2091年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2092年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2093年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2094年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2095年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2096年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2097年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2098年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2099年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。2100年、東京大学文学部助教授、専攻、日本文学。

7月20日（土）  
13:30-14:30  
13:00-14:30  
（開場13:00）  
参加費 無料

おげがわマイン 3F  
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2  
OKEGAWA hon プラス イベントスペース  
お問合せ先 ☎048-786-6353



おげがわマイン 3F  
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2  
OKEGAWA hon プラス イベントスペース  
お問合せ先 ☎048-786-6353



おげがわマイン 3F  
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2  
OKEGAWA hon プラス イベントスペース  
お問合せ先 ☎048-786-6353

2019 年度「世界の教科書展」  
特集：台湾の教科書

2019 年 11 月 1 日（金曜日）から 3 日（日曜日） 藍蔘祭参加  
8202 教室

越谷キャンパスの学園祭（藍蔘祭）で開催している「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。ある地域の、主として初等教育の全教科の教科書を展示している。さらに会場を囲むパネルで、その地域の概要や教育制度を紹介し、教科書の一部の翻訳を掲示してきた。学外からも来場者が多く、教科書展は多くの人々と教育について語る場として発展してきた。

今回で 26 回目となる教科書展【11 月 1 日（金）から 3 日（日）まで、8202 教室で開催】では、台湾の教科書に焦点を絞る。台湾の教育を教科書から概観し、日本と比較する視点を提供したい。2 日（土）には、台湾、および台湾の教育について、本学非常勤講師・綿貫哲郎先生に公開レクチャーを行っていただく予定である。

教科書は次世代を担う子どもの教育を映し出している。教科書から地域事情が垣間見られ、我々が学ぶことは多い。母語と教育言語との関係、教員養成課程についても比較したい。

台湾は 1895 年から 1945 年までの 51 年間、日本の統治下にあった。学校教育は日本語で行われたので、この時代に教育を受けた「日本語世代」は日本語を話すことができる。今回の教科書展で、日本との関係や歴史について考える機会になればと願っている。

会場では、実際の教科書を手にとりいただき、台湾の教育の「いま」を体感していただきたい。

（研究部主任 山川 智子）

～ 今までに開催した教科書展ポスター ～

世界の教科書に興味がある方は、ぜひ足をはこんでみてください。  
【教育研究所】  
10 号館 2 階  
平日 9 時～14 時



桶川における  
「<世界の教科書>巡回展」

2019年12月7日(土)・8日(日)  
「OKEGAWA hon+」  
(桶川駅西口駅前桶川マイン3階)

教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を理念に掲げ、学内外で連携をとりつつ、様々な研究活動を行っている。中でも学園祭(藍蔘祭)で開催される「世界の教科書展」は多くの関心を集めている。そこで地域貢献の一環として、2016年度から学外(桶川)でも教科書展を行っている。

今年で4回目となる巡回展は、「OKEGAWA hon+」(桶川駅西口・桶川マイン3階)にて、12月7日(土)～8日(日)に開催する。藍蔘祭で展示した台湾の教科書を展示する。8日(日)には、藍蔘祭と同じく綿貫哲郎先生に公開講座を行っていただく予定である。台湾の現状や教育について、地域の方たちと情報共有し、議論していきたい。

大学と地域との連携で教育を考えていくにあたり、国際比較は重要である。その一環として、地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となればと願っている。(研究部主任 山川 智子)



昨年の公開英語模擬授業  
「小学校の授業を体験！」

公開「定例研究会」発表一覧

第98回 11月3日(日)

- ・社会教育の学習手法に関する研究  
—主体形成を目指す学習実践の在り方—  
阪本 陽子
  - ・ビブリオバトルを取り入れた授業実践の可能性  
綾 牧子
  - ・学校と博物館が学び合える場を目指して  
—川越小学校の博学連携による  
教育活動の可能性を探る—  
清水 香保里
  - ・NPOと学校の協働  
—気仙沼市とインドネシア・アチェとの  
ビデオ対話プロジェクトを通して—  
中川 真規子
  - ・基礎教育の保障  
基礎教育に対する効果的なアプローチ  
—夜間中学校を中心に—  
矢作 由美子
- …興味のある方は、どうぞご参加ください…

2019年度  
『文教大学の授業』執筆者紹介

- 第68号 健康栄養学部 松田 素行 先生(既刊)
- 第69号 人間科学部 谷島 弘仁 先生(既刊)
- 第70号 教育学部 山本 浩二 先生(既刊)
- 第71号 文学部 渡辺 敦子 先生

2019年度 教育研究所スタッフ

所 長	平 正人	
研究部主任	山川 智子	研修部主任 手嶋 将博
事 務	河口 恭子	